



■地域とともに育む

「自ら学び つながり やり抜く」力

桂川小学校 校長 薄井純一

本校では、学校教育目標「やればできる たくましい児童の育成」の実現に向け、「自ら学び つながり やり抜く」力を育む教育活動を進めています。子どもたちが地域や社会、人との関わりの中で学ぶことができるよう、各学年の発達段階に応じた行事や体験活動を大切に行っています。

1学期には、「町たんけん」「公共施設見学」「ごみ処理施設見学」「修学旅行」など、教室を飛び出して学ぶ機会を数多く設けました。子どもたちは、自分の目で見て、耳で聞き、友達と考えを伝え合いながら学びを深めています。

実際の人や物、出来事に触れることで、「どうだろう」「もっと知りたい」という思いが生まれ、自ら学ぶ意欲が高まっています。また、友達と協力しながら活動する中で、互いの考えを認め合い、一つの目標に向かって最後までやり抜く姿勢も多く見られます。一つの行事が、「自ら学び つながり

やり抜く」力を育む大切な学びの場となっています。

こうした教育活動は、学校だけでなく実現できるものではありません。地域や関係機関の皆様、そして日頃から学校教育にご理解とご協力をいただいている保護者の皆様のおかげで、子どもたちは本物に触れ、豊かな学びを積み重ねています。

2学期以降も、「運動会」「セカンドスクール」「王塚太鼓演奏」など、地域とのつながりを大切にした教育活動を予定しています。

桂川小学校は、これからも地域の皆様とともに子どもたちを育てる学校であり続けます。一つ一つの行事を通して、子どもたちが「自ら学び つながり やり抜く」力を育めるよう、地域の皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



■「1学期の教育活動の様子」

桂川東小学校 校長 岡本一郎

① 情報活用能力について

昨今、スマートフォンやタブレット等は、子どもたちにとって身近なツールとなっています。本校でも、5年前に導入された「1人1台端末」を活用し、いつでもどこでも主体的に学べる「個別最適な学び」の実現を目指しています。また、昨年度からは福岡県学力調査をはじめ、多くの調査がインターネットを利用した方式(CBT)へと移行が本格化した。デジタル社会の子どもたちが、



端末を正しく使いこなし、確かな学力を発揮できるよう、今後も指導を工夫してまいります。

写真は1年生が端末を利用して

② 探究心を持つ児童について

本年度は、校内研究として、「問いを見出し、学びを深める学習指導の

具現化」を主題に、指導の充実に取り組んでいます。写真は7月1日に本校で行われました筑豊教育事務所主催の「授業づくり実践講座」の様子です。



筑豊教育事務所管内の多数の先生方が参加され「学習者中心の授業づくり」の実現のために本校5年生の算数の授業を参観されました。授業後の協議会で熱心な協議が行われ、その内容は本校が目指す「自ら探究する子ども」の育成に、深く通じるもので大変有意義な時間でした。これからも問いを主体的に持ち、その解決に向けて情報を収集・分析し、納得できる答えを見つけて出すまで粘り強く取り組む学習プロセスを深めていきたいと思います。